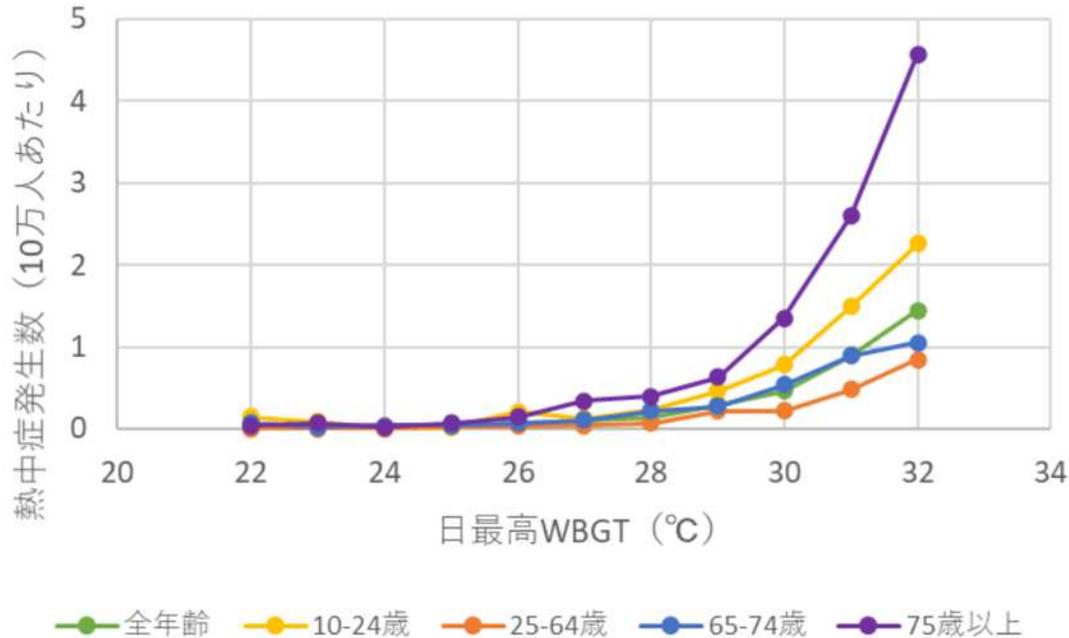


2. 地域の熱中症リスク評価

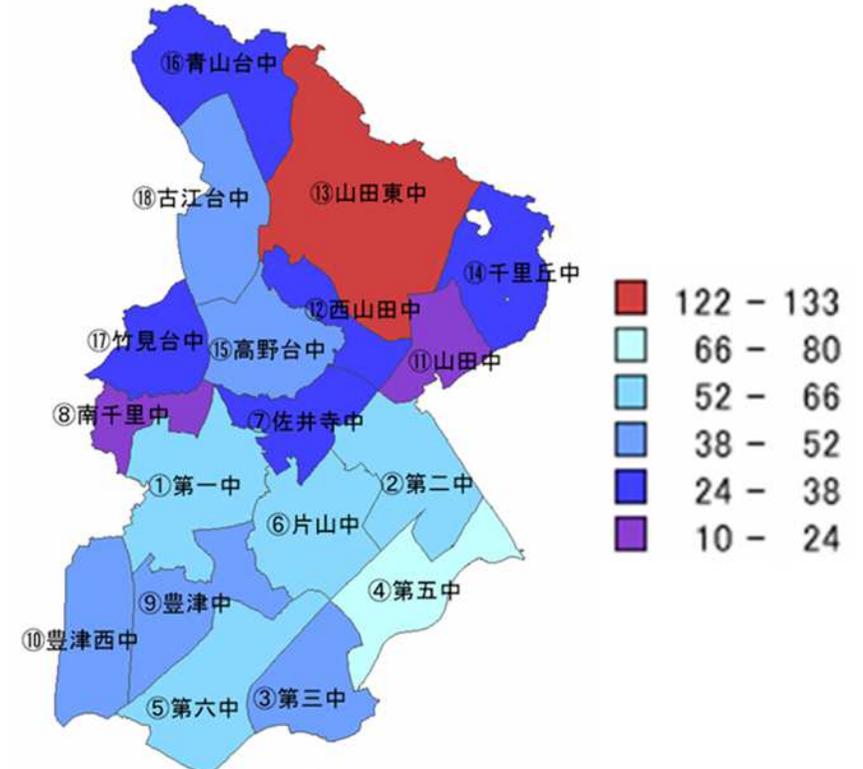
事例1. 大阪府吹田市(1)

- 熱中症救急搬送者数のデータを用いて **中学校区別の分析** をし、熱中症の危険性が高い年齢層や場所を把握。
- WBGTとの関係や地域分布を地図化するなど他のデータと組み合わせた分析を実施。



▲年齢層別・日最高暑さ指数(WBGT)別の熱中症発生数

日最高暑さ指数(WBGT)30を境に熱中症発生数が増加しているが、特に後期高齢者の発生数の増加が顕著。次いで10-24歳の若年層が多くなっている(曜日別の分析では、若年層は著しく土日に多く発生している)。



▲熱中症搬送者数(2014年から2020年)

スポーツ施設の多い万博記念公園が所在する、山田東中学校区の熱中症発生数が多い傾向。

■工夫した点

熱中症の救急搬送者数、地域関係機関のヒアリング結果をもとに高リスク対象を抽出するとともに、地域関係機関などから構成され、地域住民参加型の熱中症対策を協議するための会議体(プラットフォーム)【事例7-6】について検討を行いました。

さらに、高リスク集団として抽出された学生、アスリート、高齢者に対する熱中症予防の行動化に向けた効果的な情報提示の方法をプラットフォームにおいて検討しました。プラットフォームにて議論をすることで、問題点を速やかに共有することができ、問題解決に効果的と考えられる対策の抽出にいち早く辿り着くことができました。

2. 地域の熱中症リスク評価

事例1. 大阪府吹田市(2)

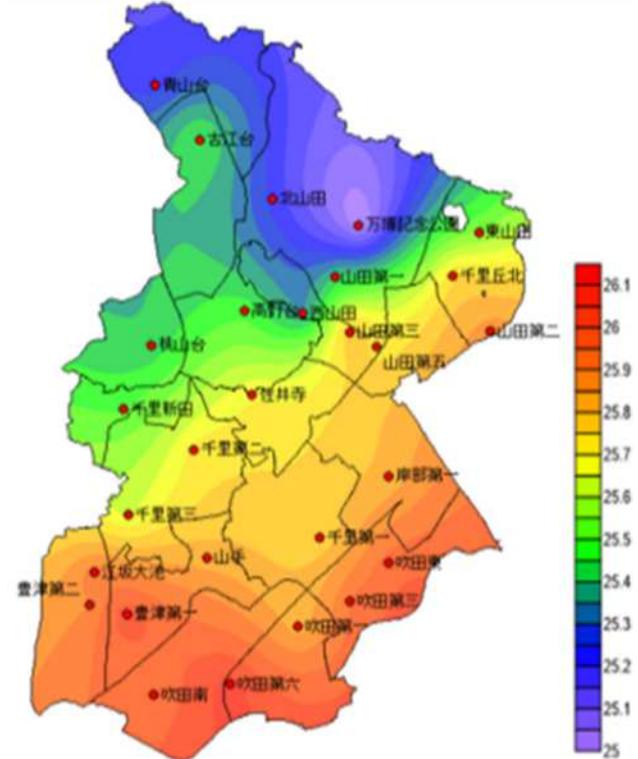
- 市内各所における気温等調査を実施し、**熱中症リスクの高い場所や時間帯**を把握。
(市内の代表地点2か所でWBGTの測定及び市内36か所で温度の測定。)



▲WBGT計（北消防署屋上）



▲温度計（万博公園）



▲解析データ[例]
2022年7月26日(5時)のWBGT分布

■ 苦労した点

- ・ 温度調査については日照や雨などの影響で測定値が大きく変化するため、小学校の百葉箱を活用

■ 工夫した点

- ・ 小学校の百葉箱を活用するにあたって、小学校との調整
- ・ 百葉箱の場所や劣化状況の把握、
- ・ 市内小学校等の30か所の百葉箱へ温度計の設置や回収、3か月に1回のデータ収集